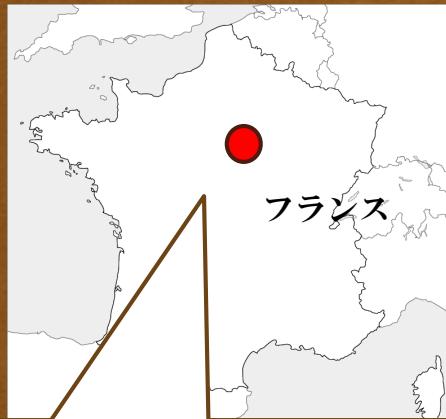


1週間の旅のカタチをご提案！

あなただけの理想の旅 “至福の癒し旅” フランス・セーヌ川クルーズ編



パリは日本と比べ気温が低い。
長袖の襟付きシャツなどを
準備しておいた方が良い。

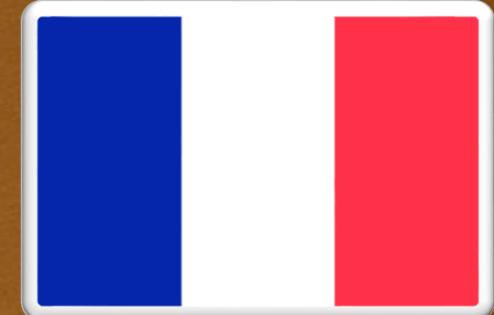
正式国名：フランス共和国
République Française

面積：約55万 km² (海外領を除く)
首都：パリ

人口：約6632万人 (2015年1月現在)

公用語：主としてフランス語
日本との時差：-約8時間 (サマータイムあり)

東京（成田）～パリ間は直行便で約12時間



通 貨



通貨：ユーロ 一般的に€と表記 補助通貨はセント

1ユーロ→100セント

1ユーロ→約131円 (*撮影当時)

水



水：水道水は石灰分が多いが飲用可能。気になる方はミネラルウォーターを。

ミネラルウォーターは炭酸入りと炭酸なしの2種類がある。

自動販売機で買うペットボトル500mlは1.5ユーロ（約201円）で買える。

両 替



両替：現地で両替が可能なので、そのまま日本円を持参してもOK。

※一般的にユーロは現地で両替するより日本で両替した方が
為替レートが良いといわれている。

電源とプラグ



標準は220Vで周波数50Hz。

日本国内用の電化製品はそのままでは使えないで変圧器が必要。



初日のスケジュール



パリ市内の名所旧跡を観光



モンマルトルの丘を散策



クルーズ船にチェックイン～出航へ

“華の都” パリ



すべての人を魅了する麗しの町パリ。エッフェル塔やノートルダム大聖堂、凱旋門などは多くの人々を魅了し続ける。この地には毎年、世界各地から多くの観光客が集まる。パリの街は、古い歴史を感じさせる街並みと近代的な建物の建つ新開発エリア、新旧両方の表情を見てくれる。高級ブティック、街に骨董街、学生街に歓楽街など、地区ごとに個性が違うので、それぞれの雰囲気を味わいたい。パリのセーヌ河岸には、パリ2000年の歴史を代表する様々な建造物が点在し、世界遺産に登録されている。

シャンゼリゼ大通り

16世紀まで野原と沼地しかなかった場所だが、
17世紀中頃に整備され「エリゼの野」と名付けられた
(ギリシア神話に出てくる楽園の意)。

19世紀ナポレオン3世の時代からは、シックでエレガントな通りに
生まれ変わり、その優雅さが現在まで続く。
カフェに座り、道行く人を眺めれば誰もがパリっ子を気取りたくなる。
パリ随一のブランドショップ街でもあるこの界隈は、
昼も夜もスノップな人々が集まる場所としてさらなる進化を遂げている。



凱旋門

シャンゼリゼ通りの最西端にそびえる凱旋門は
1805年フランス軍勝利の記念としてナポレオンの命により建てられた。
しかし門の完成を見ずにナポレオンは亡くなってしまう。
1840年に門は完成し、以降祖国のために命を捧げた人たちの
記念碑となった。



凱旋門は屋上に上がる事ができ、そこからは12本の大通りが放射線状に
延びる大パノラマを楽しむ事ができる。

エiffel塔

フランス革命100周年を記念して行われた第3回パリ万国博の際に
建てられた塔。発案当時「景観を損ねるもの」として
市民から大きな反発にもあったが、今ではすっかり街の顔となった。
3階の展望台からの眺めは抜群。夜景を楽しみたければ暗くなつてから
上つてみよう。昼間とは違つたパリの町を望める。



見学料金

3階まで上る	13.4ユーロ（約1760円）
2階まで上る	8.2ユーロ（約1070円）

ノートルダム大聖堂

フランスの中世文化を象徴するゴシック様式の大聖堂。
建築、彫刻そしてステンドグラスなど、すべてが美しく、
「ゴシックの最高傑作」といわれている。
「ノートルダム」は、聖母マリアを意味し、
キリストの母への信仰が聖堂内の至る所に見られる。
塔の頂上からの眺めもすばらしい。

見学料金
大聖堂は無料
塔は8ユーロ（約1050円）の見学料が必要



ノートルダム大聖堂 ゼロ・ポイント

ノートルダム大聖堂の正面の石畳には、
ポワン・ゼロ point zéro（ゼロ・ポイント）を示す
丸いプレートがはめ込まれている。
この場所を0地点として各地への距離を測っていた。



セーヌ川

フランス東部、ラングル高原からパリ盆地を通り
イギリス海峡に注ぐフランス第二の川。
全長 776 km。



モンマルトル

パリの北に位置するモンマルトルは、丘の上にある村のような存在。
舞台や映画にもなったムーランルージュに代表とされる夜の歓楽街や、
サクレ・クール寺院に旅行客が集まる観光地が有名。
かつては芸術家をも惹き付け、今なお多くの画家たちが集まるエリア。



サクレ・クール寺院

パリで最も高い丘「モンマルトルの丘」の上にそびえ立つ
このエリアのシンボル的存在。
フランスの大ヒット映画『アメリ』の舞台になった場所としても知られている。
パリの教会では珍しいビザンチン様式で、真っ白な外観と3つのドームが特徴。
天気の良い日には、パリの左岸からもその堂々とした姿を臨むことができる。



有名画家たちが夢を育んだアパート アトリエ洗濯船跡

かつてパリのモンマルトルにあった安アパート。
1904年から1909年まで、パブロ・ピカソが恋人の
フェルナンド・オリビエと共にここに住んだ。
このアパートには多くの芸術家たちが居を構え
夢を抱えながら日々芸術に勤しんだ。
残念ながら1970年木造家屋は消失してしまった。
現在も「Le Bateau Lavoire」の名前が広場の一角に残されている。
ちなみに「洗濯船」と名づけたのは詩人のマックス・ジャコブ。
細長い長屋風な建物で、歩くとギシギシ音が鳴り、
セーヌ川に浮かんでいる洗濯用の船とそっくりであることから名づけられたらしい。



このアパートに住んだピカソは、自らの表現方法を模索し続け、
1907年 現代美術の幕開けとも言われる
「アヴィニヨンの娘たち」を完成させ、
抽象画“キュビズム”を確立させたといわれている。
また、近所にはパリで最初に開いたアトリエがある。



テルトル広場

19世紀にユトリロ、ピカソ、ルノワールなど多くの画家達が住んだモンマルトルの丘にあり、かつてはモンマルトル村の中心だった広場。現在は似顔絵画家や風景画家の露店、カフェなどが集まり、多くの観光客で賑わっている。



パティスリー ジル・マルシャル

アベス界隈とモンマルトルの丘をつなぐ、ラヴィニヤン通り。そここの急な坂道を登り切ったところにその店はある。店からのぞむパリの街を望む景色が店の自慢。



セーヌ川クルーズ

オーストリアを拠点にリバーカルーズを展開するルフトナー・クルーズ。家族経営の会社らしくアットホームな雰囲気が、くつろぎの旅を演出してくれる。セーヌ川に就航する「アマデウス・ダイヤモンド」の船内は、モダンでエレガント。すべての客室に大きな窓が備わり、川岸の風景を間近に楽しめる。



アマデウス・ダイヤモンド

総トン数：1,566トン 全長：110メートル

乗客定員：148名 客室数：67室

「モーツアルト」などの音楽家名が各デッキに名づけられた
お洒落な客船。

小型船だからこそ行き届いた上質なサービス、
そして船が揺れることなく快適にクルーズを楽しめる。



リバーカルーズの醍醐味!

観光目的地の目の前にまで行ってしまう便利さにつきる。
船内ライフを楽しんでいる合間に次々と観光地へ行けるので
体に負担をかけずに気軽に名所散策へ出かけることができる。
窓の外を流れる、歴史的文化、自然と
生活感があふれる風景を垣間見ることができる。



客室は全室オーシャンビュー



暮らすように優雅に過ごす洗練された寛ぎの空間には大きな窓が付いている。川沿いの街並や古城など流れゆく美しい絶景がいつでも目の前に広がってくる感じ、そして夕暮れ時にはデッキでロマンティックな夕景が楽しめる。

料理

天井から床までガラス張りの窓があるメインダイニングパノラマレストランでは、伝統的な味と現代的なアレンジが融合した格調高い料理や、訪れた土地の名物を頂く事ができる。それぞれの料理に合うワインをソムリエがセレクトして提供してくれる。

番組で紹介した部屋
アマデウス・スイート/22m²
料金：7泊8日クルーズ料金
2名1室/1名分：2,683ユーロ（約351,470円）



2日目のスケジュール



ゴッホ終焉の地
オーヴェル・シュル・オワーズへ



レ・ザンドリーに向け出航



豪華なディナータイム

コンフラン

パリからの約20kmほどセーヌ川を下った場所にある街。
オワーズ川と合流するセーヌ川の右岸沿いで、
コミューンは発展してきた。



※コミューン…フランスにおける基礎自治体、
すなわち地方自治体の最小単位である。

オーヴェル・シュル・オワーズ



セーヌ川の支流オワーズ川沿いの小さな村。
多くの画家たちがアトリエを構えた村として知られている。
セザンヌも2年間オーヴェル・シュル・オワーズで絵を描いた。
また、ポスト印象派の巨匠フィンセント・ファン・ゴッホは、
晩年にこの地で作品制作に励み、37年間の短い生涯をここで閉じた村としても有名。
ゴッホが南仏サン・レミ・ド・プロヴァンスを去り、
オーヴェル・シュル・オワーズにやってきたのは1890年。
2カ月余りで70点あまりの傑作を次々と生み出した。
村の散策をしつつ、ゴッホと多くの画家たちの足跡をたどる旅が楽しめる。
パリから直通電車で約1時間という好アクセスも魅力。

オーヴエル教会

12世紀から13世紀にかけて建てられた
オーヴエルのノートルダム教会。
ゴッホに描かれたことによって世界中で知られるようになった。
現在、ゴッホの作品《オーヴエルの教会》は
パリのオルセー美術館に所蔵されている。



ラヴー亭

1889年にアルチュール=グスターヴ・ラバーが開業したカフェ兼ワイン販売店。
1890年の5月から7月にかけて、ゴッホはこの店の3階の家具付きの屋根裏部屋を
借りて下宿をしていた。

部屋は、天窓のある7m²という狭さの簡素なもの。
食事付きで1日3フラン50サンチームという安い宿泊代、
それでいて手入れが行き届いていたラバー亭は、決して恵まれた経済状況になかった
画家にとっては、十分な下宿先だったといわれる。



入場料：一般 6ユーロ（約800円）

ゴッホの墓

1890年、ゴッホはオーヴェルの墓地に埋葬された。

隣にはゴッホの弟テオが眠っている。テオはゴッホの死後6ヵ月後にオランダで急逝し、1914年になって、テオの未亡人によってオーヴェルのゴッホの墓の隣に新たに埋葬された。

ガシェ医師の庭から移植された鳶が兄弟の絆を示すようにふたつの墓を覆っている。

ツタの葉はテオの妻ヨハンナが植えたもの。

彼女は兄弟の墓に次の言葉を捧げた

「二人は生くるにも死ぬるにも離れざりき」（サムエル記・下1章23節）。

そして、2人の墓石の間には数本の麦が生えていた。

「一粒の麦もし地に落ちて死なずば、ただ一つにてあらん、死なば多くの実を結ぶべし」

（ヨハネ伝第12章24節）というキリストの言葉を彷彿させた。



3日目のスケジュール



ジヴェルニーを訪問



モネの邸宅と庭園を見学



ルーアンに向け出航

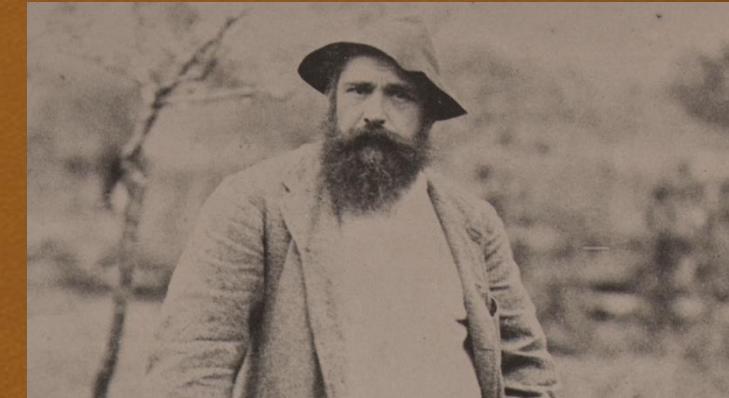
レ・ザンドリー



パリから北西へ約90km、フランス北部ノルマンディー地方ウール県の町。セーヌ川を見下ろす町の高台に、12世紀にイングランド王リチャード1世（獅子心王）が築き、フランス王フィリップ2世に陥落されたガイヤール城の廃墟がある。

ジヴェルニー

パリの北西70km、セーヌ川とエプト川の合流点に位置する小さな村ジヴェルニー。ジヴェルニー自体は小さな村だが、世界的に有名な画家クロード・モネのゆかりの地として人気の観光地になっている。



モネの邸宅と庭園

モネ（1840–1926）がル・アルブルやパリでの制作活動のあと
安住の地に選んだのがジヴェルニー。

43歳から亡くなるまで人生のほぼ半分をこの家で過ごしました。

花咲き乱れる美しい庭園はモネ自らが設計したもの。

しだれ柳が水面に影を落とす蓮池がまさに「睡蓮」の世界を思わせる情景。

池にかかる太鼓。この橋を見るとモネが日本趣味であった事がわかる。

こちらは花の咲いている時期こそ訪れる価値があるので、

冬には閉館してしまうので注意が必要。

モネの家は淡いピンク色の外壁や内部の調度品も当時のままに修復され、

画家の息遣いを感じることができ、モネ自身が集めた

貴重な日本の版画（浮世絵）コレクションが展示されている。

また、料理が好きだったモネ。

ブルーやイエローなどの色をベースに取り入れた、

キッチンやダイニングなども見る事ができる。



入場料：一般 6ユーロ（約800円）

オープン期間 4月1日～11月1日 9:30～18:00

モネの墓

1926年86歳で亡くなったモネが眠る墓地はモネの邸宅と庭園から
5分くらい行った先にある教会の右手を丘に沿って登っていったところに
ひっそりと佇んでいる。
まわりには花が植えられ、季節ごとに可憐な花々が色を添え、
今もなお彼の作品を愛するファンが祈りを捧げに訪れる。



町中カフェ

村の中には、アンティークショップやホテルやカフェなどあり、
緑あふれる自然の中でのんびりフランスの醍醐味とも言える
テラスでティータイムがお勧め。



ホットティーとケーキ
料金：5ユーロ（約660円）
イチゴのタルト
料金：6.5ユーロ（850円）



4日目のスケジュール



職人の町ルーアンを散策



鉄や陶器の工芸品を見学



モネが連作を描いた大聖堂と
アトリエを見学

ルーアン

フランス北西部、ノルマンディー地方の中心都市・ルーアン。街は、9世紀に北欧から海を渡って来た民族によって作られ、16世紀からは、フランスの貿易港として栄えた。



木組みの家

ノルマンディー地方特有の木組みの建物。この地の豊かな木材と北欧の伝統的な木造建築の影響によって、木と漆喰の建物が多く建てられた。中には、築500年を越えるものも...。茶色の塗装は塗料に牛の血が混ぜられていて虫が付かないようになっている。





鉄の看板

19世紀には、イギリスから鉄鋼の技術が伝わり、多くの職人たちが鉄工芸に、携わるようになった。街にある鉄の看板は、その証である。



ルーアン焼き

職人の街・ルーアンを代表する伝統工芸品があります。陶器「ルーアン焼き」。陶芸の技法は、海外から輸入した美術品と共に伝わり、「ルーアン焼き」は16世紀末に始まり最盛期を迎えたのは17世紀。人気を博したのが、白地に青で絵付けされた陶器。伝統の技は、今も受け継がれている。



ジャンヌ・ダルク教会

15世紀の百年戦争でフランスを奇跡的な勝利に寄与した少女ジャンヌ・ダルクが、宗教裁判にかけられたのち、火刑に処されたのがここルーアン。

1979年、木骨組みの家々に囲まれた旧市街広場の前にジャンヌ・ダルク通りにあった聖ヴァンサン教会に代わるものとして、彼女を祀るため火刑にあった場所に建てられたモダンな造りの教会。内部では聖ヴァンサン教会から移ってきたルネサンス期のステンドグラスが見られる。



ノートルダム大聖堂

フランス・ゴシック最高建築のひとつで、12世紀に工事がはじまり16世紀に完成。北フランス3大聖堂のひとつに数えられゴシック建築の代表的な建物。

火災や戦争によって修復されてきた歴史もある。

19世紀には印象派の巨匠モネが描いたことでも有名。尖塔は151メートルの高さがあり、フランスで一番高い。

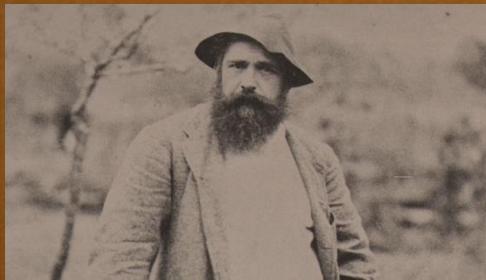


大時計台

16世紀につくられたルネサンス様式の大時計。今も正確に時を刻んでいる。
時計台からはルーアン旧市街が見下ろせるほか、13～14世紀の鐘や中世の時計のメカニズムが
わかるようになっている。

モネが描いた大聖堂

1892年から1893年にかけて、モネはルーアンでノートルダム大聖堂の連作に取り組んだ。
30数点の連作のほとんどは全く同じ角度から描かれたものだが、
季節・天候・時間によって無限に表情を変える大聖堂の一瞬一瞬がそれぞれの作品でとらえられている。
モネは、大聖堂が見える3ヶ所のアトリエから、三十数点もの連作を描いた。
そのアトリエのひとつが、大聖堂の向かいの建物、現在のルーアン観光局の2階にある
レセプションルーム「ジョルジュ・ダンボワーズの間」。



5日目のスケジュール



美しい港町オヌフルールを散策



ノルマンディーの名物グルメを堪能



名産品のショッピング

コードベック・アン・コー

セーヌ川河口に位置するコドゥベック・アン・コー。
人口は約2000人、端から端まで歩いても10分ほどの小さな街。
街並みは、手入れの行き届いた庭園のように美しく、落ち着いた雰囲気。



コードベック・アン・コー聖堂

1426年に着工した聖堂は、規模こそ小さいものの、
非常に良く統一されたフランボワイアン・ゴシックの作例とされており、
戦争で破壊された街中で奇跡的に生き残った。



オンフルール

パリから続くセーヌ川河口の貿易拠点として栄えた小さな港町オンフルールは、木組みの家の町並みと港のヨットが絵になるポストカードの風景のようなかわいい町。19世紀にはこぞって印象派画家たちがスケッチに訪れた町でもある。小さな町の中には、評判のいいレストランやカフェ、雑貨屋などが連なり、美術館や教会、遊覧クルーズなどの観光レジャーも充実している。パリから車で約2時間、フランスの田舎町を訪れたい方にはオススメ！



旧港

パオンフルールのシンボル旧港は、カフェやレストランが連なる賑やかな場所。旧港を囲むように伝統的なノルマンディー地方の木組みの建物が並びポストカードにもなる絶景スポットの散策が楽しめる。



旧市街

旧港のすぐ裏の旧市街地には、中世時代から残る木組みの家々と雰囲気がある石畳の小道が広がる。雑貨屋やアクセサリー店、お土産屋、アートギャラリーやレストランなど多くありショッピングも楽しいエリア。



サント・カトリーヌ教会



鐘楼とともに町のシンボルになっている造船をモデルに作られた珍しい木造教会。町の人々は、経済的な問題から石ではなく木材で建てることにし、船大工たちが造船の知識や技術をもって、フランスで最大の木造の教会を建築した。
教会内部の天井は、まるで船の底面のようなつくり。
教会の別棟には15世紀末につくられた木造の鐘楼がありこちらも見所の一つ。現在は美術館として公開されている。





市場（マルシェ）

週末の風物詩となっているマルシェ。

こちらでは新鮮な野菜や果物などのノルマンディー名産品が、その豊かさを競い合うように並んでいる。

アンドウイユ

豚の大腸に、豚の腸や胃、喉肉、バラ肉などを詰めたソーセージ。丁寧な下処理と手間をかけて作られるフランスならではの味。



リヴァロ

フランスノルマンディー地方の牛乳を原料としたウォッシュタイプのチーズ。匂いの強く濃厚な味わい。



カマンベールチーズ

表面が白いカビで覆われており、内部はクリーム色で、熟成が進んだものはトロリとしている。

カマンベールは上品でクセがないクリーミーな味なので、誰にでも食べやすく人気が高いチーズ。

グリブイユ

ノルマンディー地方の特産品ばかり集めたこだわりのお店。

店主の御夫婦が、品質と価格にこだわって集めたお薦め商品ばかりが並んでいる。

天井からぶら下げられた古いキッチン道具や棚やレジなど店にあるもの全てがプロカントの古道具。

眺めているだけでもかわいい店である。



シードル

リンゴ栽培が盛んなノルマンディー地方では、林檎を発酵させて造られるアルコール飲料で、発泡性であることが多い。甘口から辛口まである。

カルバドス

「シードル」をさらに蒸留・熟成させたのが「カルバドス」。

最低でも樽で2年熟成させるため、ワイン同様に作り手の個性が際立つ。



ガレットとクレープの専門店 ラ・シドルリー

ガレットとは、そば粉で作るクレープのこと。

小麦で作るクレープが甘いのに対し、そば粉のガレットは塩味が基本。

中世十字軍によってフランスに運ばれた文化は、ブルターニュのアンヌ女公がソバ栽培を無税として奨励したため、この地方でガレットがポピュラーな料理になった。

外側はパリッと、中はもっちりした生地に、ハム、卵、チーズを入れたガレット・デ・コンプレはガレットの定番メニュー。

散歩の途中、小腹を満たすのにもピッタリのガレット、飲み物は、シードルを添えて頂きたい。



ガレット・デ・コンプレ
料金：12ユーロ（約1570円）

6日目のスケジュール



イギリス海峡沿いのリゾート地
ドーヴィルとトゥルーヴィルを散策



獲れたてのシーフードを堪能



小さな村々で民宿やスイーツのお店巡り

ドーヴィル

海岸沿いにはリゾート地や小さな湊町が広がるバカンスエリア。フランスで「海水浴」というレジャーが初めて流行したのは十九世紀のこと。その頃に開発された歴史あるリゾート地ドーヴィルは、上流階級の人々やセレブが集まるノルマンディー地方最大のリゾート地くなっている。



区切られた個別のロッカールーム

ドーヴィルは毎年映画祭が開催されている、映画と関係の深い街。ビーチのすぐ脇にあるロッカーにはそれぞれに映画スターの名前がつけられている。こちらは海水浴をする人達用のレンタル更衣室。各ロッカーのドアの横には映画スターたちの名前が書かれているが映画スター専用のロッカーというわけではなく、シーズンを通してレンタルするもの。フランスのお金持ちにとってはひとつのステータスなのだろう。



トゥルーヴィル

川を隔て、ドゥーヴィルの対岸に広がるのが、同じく古くからのリゾートタウンとして人気の街、トゥルーヴィル。

19世紀に鉄道の普及以来、パリから気軽に行けることで人気となった避暑地。



魚市場

トゥルーヴィルの名物は道沿いに並ぶ魚市場。

市場に並ぶ新鮮な魚介類は店先で調理し、その場で楽しむ事ができる。

フランス産の白ワインとの相性は抜群。



※番組で紹介したシーフード盛り合わせ
料金：40ユーロ（5,240円）



ブーヴロン・アン・オージュ

「フランスの最も美しい村」のひとつに選ばれているブーヴロン・アン・オージュ。17世紀から続く「コロンバージュ」と呼ばれる木組みの家並みを守る小さな村は、花で彩られたロマンティックな世界。

30分も歩けば一周できてしまうほど小さな村で人口はたったの230人。周囲はのどかな牧草地が続いている。



「フランスの最も美しい村」の条件とは？

- ・人口が2000人以下で、都市化されていない地域であること
- ・歴史的建造物、自然遺産を含む保護地区を最低2ヶ所以上保有していること
- ・歴史的遺産の活用、開発、宣伝などを積極的に行う具体的な事案があること

2013年には、157村が『フランスの最も美しい村』として認定されているが、これらの条件が満たされなくなった場合には登録が抹消される時がある。

マカロンショップ レ・メ・ダムール

お店を開いたのは約1年前。

オーナーは元々、飲料水会社に働いていたが体調を壊し会社を辞めた。

昔から甘いものが好きだったので、独学で勉強してお店を開いた。

内装は両親が手伝ってくれ、カラフルなマカロンにお似合いの
可愛いフレンチカントリー雑貨も扱っている。



クレープ専門店 ラ・コロンバージュ

クレープは、フランス北西部のブルターニュが発祥の料理。

元になったのは、そば粉で作った薄いパンケーキのガレット。

今日では、フランス全土で食べられている国民的な食べ物となった。

最もシンプルなのは、砂糖をかけただけのクレープ。

更にお酒でフランベしたクレープ・シュゼット、メープル・シロップ、
レモンジュース、ホイップクリーム、フルーツ・ソース、
スライスしたフルーツを上にかけたものまで、バラエティに富んでいる。



番組で紹介した料理
リンゴのコンポートクレープ
料金：8ユーロ（約1,050円）

民宿（シャンブル・ドット）

フランスの田舎で、海岸で、山で、気軽に宿泊できる事から人気のシャンブル・ドット。

シャンブル・ドットは、英語圏の国でいうB&B（ベッド&ブレックファースト）、日本でいう民宿。家族経営であることが多い。

番組で紹介した料理

1部屋1泊165ユーロ（約21,620円）

※季節によって料金は異なる



7日目のスケジュール



エトルタで白亜の断崖を見学



世界遺産の港町ル・アーブルを散策

エトルタ

ルーアンの西北西約80キロ、ノルマンディーの海に面した、真っ白な切り立った崖と岩のブリッジが織り成す海岸の美しい小さな村。エトルタはノルマンディーの海岸線の中でも特に名高い景勝地。

海に向かって垂直に切立つ白い石灰岩の断崖と、どこまでも続く美しい海の景色に、印象派の画家、特にセザンヌやモネは夢中になり、作家ヴィクトル・ユーゴーやモーパッサンも大絶賛していた。

モネはル・アーブルで成長した後、当時デラクロアやクールベなど写実派の大家が愛し描いた、実家からも近いこのエトルタにしばしば制作に訪れた。

さらに、名声を得て大家となった19世紀末にも再びこの地を訪れ、その結果この地を描いた多くの名作が残っている。



ル・アーブル



エトルタの南約20キロ、人口約19万人が住むフランス屈指の規模を誇る港湾都市ル・アーブル。16世紀初頭、軍港として造られたル・アーブルは、その後、商業貿易の拠点として繁栄した。

当時、世界中から商品が集まり、フランス初の貨物倉庫が建設された。19世紀半ばにパリから鉄道が通るようになると、海辺のリゾート地として発展を始めた。

サン・ジョセフ教会

町の中心に燐然とそびえたつサン・ジョセフ教会の八角形の塔は、
鉄筋コンクリートを用いて近代的な建物を次々に生み出したペレの代表作。
高さ107m、幅40m、長さ65mの巨大なコンクリートの教会に使用されたコンクリートの量は、
なんと5万トン。



次の旅の提案は9月18日、スイスの旅をお送りします。

そして旅にオススメの素敵なおもてなしは

MUSIC TRIP
～至福の音楽旅～

へどうぞ！